㉕平成30年７月豪雨出水に対する住民による防災活動の先進事例
～揖保川正條地区における畳堤実稼働～

授賞機関　兵庫県　たつの市正條自治会自衛消防団

キーワード　畳堤、地域防災力、水防活動

全建賞審査委員会の評価ポイント

自治会自衛消防団が全国で初めて畳堤を設置した先進事例。平成30年７月豪雨の際に、住民自ら畳堤設置を決断し、深夜に250m、100枚の畳を住民が設置した。幸い水位は畳堤の高さまでは至らなかったが、毎年の訓練の成果が発揮されており、危機的な状況に地域コミュニティが適切に機能している点が評価された。

1. はじめに

畳堤とは、普段は橋の欄干のように見えるフレームに、畳を挿入することで堤防の役割を果たす特殊堤である。畳はどこの家庭にもあるため、すぐに用意でき、土嚢を積むよりも手軽に設置が出来るだけでなく、水分を含むと膨張し、強度を増すという特徴があるため、水防活動に適している。

揖保川では、昭和20年の７月から10月にかけて何度も堤防が決壊し、濁流が民家を呑み込む被害が続出した。用地が限られる中での対策として、壁のような特殊堤が検討されていたが、「普段は揖保川が眺められるよう枠だけにして欲しい。防災はみんなで行うもの、洪水の時は自分たちも畳を入れて協力する」という周辺住民の要望により、現在の畳堤の形状になった。

2. 事業の概要

平成30年７月豪雨では、揖保川流域に７月５日から雨が降り始め、龍野観測所では総雨量が287㎜に達し、ピーク水位は７日午前３時に氾濫危険水位を超過する3.64mに達した。このため、たつの市正條自治会は、自らの地域を守るために率先して畳を設置することを決断した。豪雨の中、７月６日深夜から７日未明にかけて、正條地区の住民約50名が全長250mに及ぶ約100枚の畳を実際の洪水で初めて設置した。幸いにも、河川の水位が畳堤に及ぶことはなかったものの、住民が自らの命（地域）は自ら守る防災行動により、地域の安全・安心に貢献した。

畳の設置状況（正條自治会提供）

3. 事業の成果

たつの市正條自治会では、約10年前から毎年畳堤を設置する水防訓練を自主的に実施してきた。その結果、住民の防災意識が高まり、ちょっと声をかければ誰もが地域のために自分が出来ることを進んでやるという雰囲気が醸成されてきていた。このことが、平成30年７月豪雨で正條地区の住民約50名が協力して水防活動を実施したことに繋がった。

正條自治会の水防訓練（正條自治会提供）

4. おわりに

正條地区では、畳堤の設置訓練を通して、地域のコミュニティが活性化され、防災力向上に繋がっている。約10年かけて住民の間に浸透してきた畳堤だが、活動の担い手の高齢化が課題となっている。揖保川を管理する姫路河川国道事務所としては、畳に代わる軽量な資材により、負担軽減を図るなど、今後の畳堤文化の維持・継承、ひいては水防災意識社会の再構築に向けた支援を実施して参りたい。